

# 令和7年度第1回草加市立図書館協議会会議録（概要版）

## 1 開催日時

令和7年10月23日（木）午後1時30分から午後4時00分まで

## 2 開催場所

草加市立中央図書館 4階多目的ホール

## 3 出席者の氏名

### (1) 委員 8人

青柳伊佐雄委員長、橋本奈津子副委員長、遠藤淳一委員、中山裕子委員、  
杉山ふみ子委員、柴康子委員、二俣彩友香委員、小曳京子委員

### (2) 事務局 9人

浅古教育総務部長

矢島中央図書館長、松本副館長、浅井庶務係長、日野奉仕・資料係長、  
関根主事、長澤専門員

### (3) 説明員 2人

総合政策課 大屋主事、大澤主事

## 4 議事

- (1) 第二次草加市子ども読書活動推進計画の令和6年度進捗管理について
- (2) 令和6年度中央図書館事業報告について
- (3) 令和7年度草加市立中央図書館事業計画及び上半期事業進捗状況について
- (4) 令和8年度中央図書館運営方針（案）について
- (5) 中央図書館へのネーミングライツについて
- (6) その他  
今後のスケジュールについて

## 5 公開・非公開の別

公開

## 6 傍聴者数

なし

## 7 審議の概要

- (1) 第二次草加市子ども読書活動推進計画の令和6年度進捗管理について
- (2) 令和6年度中央図書館事業報告について

○全体的に、図書館の利用者数や貸出冊数、これらが目標値になかなか届かない難しさがあるなど感じる。そのあたりの要因とこの先どういう風に克服していくのかという見通しはあるのか。

○電子書籍のメリットとして音声を読み上げてくれることや文字を拡大できることがあり、小さい字が読みにくい方にとって読書を楽しめるものになると考える。こうした電子書籍のメリットを伝えて一定の予算水準を確保できるようにしてはどうか。

○図書館で開催しているにほんごひろばについて、参加希望者が増加する一方で担い手が出ているということだがどれくらい待っているのか。担い手が不足しているという説明があったため、自分が所属しているボランティアの方で人材を紹介することがある。具体的にどの程度担い手が不足しているのか分かれば連携できると考える。

○以前の会議でも出たように、図書館でやりたいことがたくさんある中で、限られた予算を利用して工夫して事業を進めていることが良く分かる。何もかも変えていくというのではなくて、古いものは当然残しながら、利用しやすいものを工夫して行っていくことになるのかなと思う。

- (3) 令和7年度草加市立中央図書館事業計画及び上半期事業進捗状況について
- (4) 令和8年度中央図書館運営方針（案）について

○「市民の関心度が低く、そもそも行政で対応すべきであるかどうかについて検討する必要がある施策」という文字を見たときにすごくショックで、市民に図書館はそんなにいらない、税金の無駄遣いみたいに思われているのかと残念に思った。そもそも市民の皆さんが図書館の使い方を分かっていないのではないかと思う。

○限られた予算をどこに使うのかが大事なことで、今日の説明を聞いて良い所に視点を持って行っており、予算を充てようとしているのが感じられた。なので、広報活動の所に図書館の上手な使い方講座のようなものを市民の皆さんに開催されてはどうか。

○図書館はとても大事な存在であり、市民のためにどうしても必要な施設であると考えるため、これからも助力していきたい。

○中央図書館ではボランティアの方が読み聞かせをしているかと思う。自分が住んでいる所ではないので、こうした読み聞かせの活動が今後も続けば良いと思う。

- (5) 中央図書館へのネーミングライツについて

○頭から図書館のネーミングライツを否定するわけではないが、慎重に考えていくべきことであると考える。公共図書館は市民全体の財産であることから、特定の利用者の

利益や思想・信条にかかわるようなネーミングは避けるように考慮すべきである。きちんと公共性を担保されるよう、ネーミングライツを活用いただきたい。

○ネーミングライツの仕組みは良いと思うし、維持管理の費用を出していただけるのであればこれ以上ありがたいことはなく、進めていくべきであると考える。一方で「図書館」や「草加市」の施設であることがわかるような名前になるのかという懸念もある。AKOSのような、草加ということがわかるような名前だと親しみがわく。